

質問の件名及び質問の趣旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>1 住み慣れた地域で暮らし続けるために (60分)</p> <p>4月、国立社会保障・人口問題研究所は、全世帯数の将来推計で、2035年には世帯主が65歳以上の高齢世帯のうち、一人暮らしが4割近くになると発表しました。全国の一人暮らしの高齢者は2010年には498万人でしたが、2035年には推計で、53%増の762万人になるということです。埼玉県は、83%増の38万人になる見通しとなっています。</p> <p>核家族化、少子高齢化の流れから、子どもや孫と同居する高齢者は減り続けるのは避けられない現実でもあります。今後、団塊世代が、配偶者の死別などで一人暮らしになるケースは増え続けると思われまます。</p> <p>自立、要支援の一人暮らしの高齢者が日常生活の中で困っていることは、1番目に「家の中の修理、電球の交換、部屋の模様替え」「掃除」「食事の準備・調理・後始末」といった毎日の生活行動でした。</p> <p>2番目は「自治会活動」の当番等に対する負担感。そして「買い物」「散歩・外出」「通院」といった外出に伴う生活行動が3番目にあげられています。</p> <p>介護保険制度第6期の改定で、要支援1、2の内、こういった生活支援のサービスが市町村の事業に移行すると聞いております。</p> <p>現在、介護サービスを利用している方も、また、今は一人でまかなえているけれど、先行きに不安を感じている方も多くいらっしゃいます。</p> <p>市町村の事業になるサービスはどのような内容になっているのでしょうか。それに対応できるだけの介護人材の確保は十分なのでしょうか。</p> <p>また、住み慣れた地域で暮らし続けるための地域包括ケアシステムについてうかがいます。</p> <p>(1) 鶴ヶ島市の一人暮らしの高齢者について  ア 鶴ヶ島市の一人暮らしの高齢者数と要支援者数  イ 困っていることの実態と対応について  ウ 今後の見通しと対応について</p> <p>(2) 軽度サービス利用者への影響について  ア 市町村事業となるサービスは  イ サービスの価格構造と財源について  ウ 介護人材の確保について</p> <p>(3) 住み慣れた地域で暮らし続けるために  ア 生活に寄り添う医療について  イ 地域包括ケアシステムについて</p>	市長